

日本精神分析協会

第44回 学術大会プログラム

会期:2026年6月13日(土)~6月14日(日)

会場:TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都新宿区市谷八幡町8番地)

目次

目次.....	1
会長あいさつ.....	2
クリニカルグループ.....	3
講演と討論.....	4
パネル.....	5
候補生の会の企画.....	7
精神分析的療法家センターの企画.....	7
一般演題.....	8

会長あいさつ

日本精神分析協会第44回学術大会の開催にあたり、会長としてご挨拶申し上げます。

日本精神分析協会は、1910年にジークムント・フロイト（Sigmund Freud）によって創設された国際精神分析学会（International Psychoanalytical Association：IPA）に加盟する精神分析家の団体として、1955年に古澤平作によって設立されました。

本協会の中核的な使命は、精神分析を次世代に引き継ぐことにあります。その遂行機関として精神分析インスティテュートを運営し、IPAの基準に則った精神分析家の訓練をおこなうとともに、本協会独自の基準に基づく精神分析的な精神療法家の育成にも取り組んでいます。本年1月現在、50名の精神分析家と20名の候補生、ならびに11名の精神分析的な精神療法家と20名の研修生が在籍しています。

また、本協会は国内外における学術活動を重要な使命の一つとしています。国際的には、IPA主催のコンgresでの発表や国際精神分析誌への投稿に加え、IPAおよび中国、韓国、台湾、インド、オーストラリアなど、アジア・太平洋地域の諸団体と協力し、継続的に学術交流をおこなっております。さらに、英語学術論文誌“The Journal of The Japan Psychoanalytic Society”を電子ジャーナルとして毎年刊行しています。

国内においては、2024年の第42回大会から、従来クローズドであった学術集会の規模を拡大し、本協会関係者に加え、一般の守秘義務をお持ちの臨床家の皆様にもご参加いただく形で開催しています。本年も多くの皆様にご関心をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。

これまで本協会関係者は、精神分析に関する多くの学術的成果を積み重ねてきました。本学術大会は、そうした成果を本協会自身が運営する場で提示し、立場や所属を超えて検討することを目的としています。本大会では、個々人が精神分析とどのようにつながり、どのように考えているのかが問われます。

精神分析的な考え方は、個人の人生の歴史を思いめぐらす視点と、臨床場面における関係性を理解し、意味あるものとして用いる姿勢をもたらします。本大会が、訓練を受けた臨床家の営みが社会の中で理解され、対話されていくための一つの接点となることを願っております。

二日間という限られた時間ではありますが、多様な発表と討論を通して、精神分析および本協会の活動への理解と関心がさらに深まることを期待しております。懇親会も含め、皆様にとって実りある時間となれば幸いです。

日本精神分析協会会長 古賀靖彦

クリニカルグループ

2026年6月13日(土)

13:00~15:15

クリニカルグループ①

3階 3B

司会：原田康平(会員) 事例提示：伊藤幸恵(候補生) 討論：奥寺 崇(会員)

クリニカルグループ②

3階 3E

司会：庄司 剛(候補生) 事例提示：皆川英明(会員) 討論：小林要二(会員)

クリニカルグループ③

3階 3F

司会：加茂聡子(会員) 事例提示：池田政俊(会員) 討論：松木邦裕(会員)

クリニカルグループ④

6階 6D

司会：藤巻 純(会員) 事例提示：鈴木菜実子(候補生) 討論：古賀靖彦(会員)

クリニカルグループ⑤

6階 6E

司会：縄田秀幸(精神療法家) 事例提示：関 真粧美(精神療法家) 討論：日下紀子(精神療法家)

15:30~17:45

クリニカルグループ⑥

3階 3B

司会：藤本裕子(候補生) 事例提示：朝枝清子(候補生) 討論：藤山直樹(会員)

クリニカルグループ⑦

3階 3E

司会：岡本亜美(会員) 事例提示：浅野美穂子(候補生) 討論：権 成鉉(会員)

クリニカルグループ⑧

3階 3F

司会：山崎孝明(研修生) 事例提示：柴田俊祐(研修生) 討論：北山 修(会員)

クリニカルグループ⑨

6階 6D

司会：北村麻紀子(会員) 事例提示：宮田善文(会員) 討論：西 見奈子(会員)

クリニカルグループ⑩

6階 6E

司会：中村浩平(会員) 事例提示：増田将人(候補生) 討論：小川豊昭(会員)

講演と討論

2026年6月14日（日）

9:00-10:25

7階 7A

講演と討論1 「回帰する亡霊

—外傷、乖離、およびエディプスコンプレックス—

講演：池田暁史（会員）

討論：岡村齊恵（会員）

司会：加茂聡子（会員）

フロイトが1895年に「私は自身の経験において真正の類催眠（乖離）ヒステリーに遭遇したことがない」と述べて以降、精神分析の歴史から「乖離」および、それを生み出すものとしての「外傷」はながらく排除されてきた。しかし、排除されたものは回帰する。いまや私たちの臨床は「外傷」で溢れている。私たち精神分析家はこれらの概念にどう向き合うべきなのか。エディプスコンプレックスをもうひとつの軸として考えてみたい。

10:35-12:00

7階 7A

講演と討論2 「『見るなの禁止』と日本語の二重性」

講演：北山 修（会員）

討論：宮田善文（会員）

司会：鈴木智美（会員）

もともと景色が好きで、昔は高いところを目指す夢を見ました。また「甘え」でも愛情対象は大抵アマテラスと同様に上方にありますが、フロイト派精神分析では「下から目線」や人間の下半身に向かう眼差しにも出会います。それで下方の黄泉（闇）の国に赴くことになり、当然、死んだ母神を発見するわけです。そこから逃げ出す父神の「不潔恐怖」の理解を深めながら、日本語臨床における私たちの表層・深層モデルを提示したいと思います。

パネル

2026年6月14日(日)

12:50-14:50

3階 3F

パネル1「心的な両性性 (bisexuality) ～『割り切れなさ』をめぐって」

企画者 : 岡村斉恵 (会員)

司会者 : 北山 修 (会員)

パネリスト: 岡村斉恵 (会員)、加藤隆弘 (会員)

指定討論 : 加茂聡子 (会員)、尹 成秀 (精神療法家)

心的な両性性という概念の精神分析臨床における表れを日本文化的視点から検討する。対立的・葛藤的・補完的な二つのアイデンティティが、統合よりも「泥む(なずむ)」とき、どのような意味が生まれるかを探索する。

6階 6D

パネル2「三角空間論の生成とその後の発展

ーブリトンとラスブリッジャーの追悼に寄せて」

企画者 : 中甫木くみ子 (会員)、和田良久 (会員)

司会者 : 和田良久 (会員)

パネリスト: 小林俊三 (会員)、皆川英明 (会員)

討論者 : 浅野美穂子 (候補生)

エディプスコンプレックス論はフロイト以降、深化し発展してきた。ブリトンの三角空間論とラスブリッジャーによるその進展は我々の臨床を支える礎になっている。2人の追悼という形で彼らの功績を振り返りたい。

2026年6月14日（日）

15:00-17:00

3階 3F

パネル3「精神分析にとって物語とは」

企画者 : 小川豊昭（会員）

司会者 : 日下紀子（精神療法家）

パネリスト：松木邦裕（会員）、藤山直樹（会員）、小川豊昭（会員）

討論者 : 田中克昌（会員）

セッションの中で語られる物語は、共感をもたらす一方で現実を覆い隠す。分析では、無意識の物語を語り出すのか、実演するのか、理解するのか、破壊するのか。エディプス神話も日常の何気ない逸話も同じ深みを持つ。

6階 6D

パネル4「『私』と出会う」

企画者 : 岡本亜美（会員）

司会者 : 岡本亜美（会員）

パネリスト：藤巻 純（会員）、原田康平（会員）、小波藏かおる（会員）

討論者 : 岡田淳子（会員）

分析状況で患者は、乳児がその不自由をどう生き延びてきたかを示す。そこで「私」と出会うのは患者だけではない。一体化と分化のプロセスで相互に多様な自己を創造するプロセスを事例を通じて共有したい。

候補生の会の企画

2026年6月14日(日)

12:50-14:50

6階 6E

「精神分析と社会」

司会 : 岩永洋一(候補生)、藤本裕子(候補生)

パネリスト: 鈴木菜実子(候補生)、玉田 幸(候補生)、豊川浩司(候補生)

討論 : 伊藤幸恵(候補生)

精神分析は、個人の内的世界を深く探究する営みであると同時に、社会の歴史的・文化的・政治的な力と切り離すことはできない。戦争体験、個人開業、出生という3つの切り口から、精神分析と社会の交錯について考えてみたい。

精神分析的な精神療法家センターの企画

2026年6月14日(日)

15:00-17:00

6階 6E

「週1回を越えて：週2回精神分析的な精神療法で何が起こるか」

司会 : 池田政俊(会員)、山口貴史(研修生)

パネリスト: 岡野泰子(精神療法家)、中村曜子(研修生)、柴田俊祐(研修生)

討論 : 鈴木智美(会員)

週2回の精神分析的な精神療法は、セッションに強い連続性が生じつつ、同時に日常のリズムを色濃く残している。それらは、連想の内容や関係性にどのようにあられるだろうか。

週1回を超えた、この設定特有の現象や臨床的意義について探索したい。

一般演題

2026年6月14日(日)

3階 3B

12:50~13:30

演題1 「『甘え』を再考する」

発表：岡本亜美(会員)

司会：藤内栄太(会員)

13:30~14:10

演題2 「ヒステリーの精神分析における性愛転移の取り扱い」

発表：坂下優二(候補生)

司会：高野佳也(会員)

14:10~14:50

演題3 「分析的関係における『他者性』—— 生き延びることを可能にするもの」

発表：笠井麻紀子(候補生)

司会：吉村 聡(会員)

15:00~15:40

演題4 「戦後80年、日本人はトラウマをどう生きたのか—カタストロフィーの視点から—」

発表：古井博明(会員)

司会：岡野憲一郎(会員)

15:40~16:20

演題5 「連合赤軍・山岳ベース事件における『甘え』のパラドックス」

発表：玉田 幸(候補生)

司会：相田信男(会員)

16:20~17:00

演題6 「能『道成寺』に見る転移性恋愛と精神病の間」

発表：衛藤暢明(会員)

司会：吾妻 壮(会員)

ステータスについて

- (会員) 当協会の会員である精神分析家
- (精神療法家) 当協会が独自に認定する精神分析的な精神療法家
- (候補生) 精神分析家を志す訓練生
- (研修生) 精神分析的な精神療法家を志す訓練生

詳しくはホームページもご覧ください <https://www.jpas.jp/ja/>